

24年度 年間スケジュール

Apr.

4/8 (月) 入学式
9 (火) [聖]春学期開始
[音]前期開始

Jun.

6/28 (金) [音]夏休み前最終日
[聖]春学期終了

夏休み

Jul.

7/6 (土) [音]教会音楽デー
8-9(月-火) サマースクーリング

Sep.

9/3 (火) [音]授業再開
6 (金) [聖]秋学期開始
27 (金) [音]前期終了

Oct.

10/1 (火) [音]後期開始
12 (土) [音]チャペルコンサート

Nov.

11/15 (金) [聖]秋学期終了
19 (火) [聖]冬学期開始

Dec.

12/13 (金) [音]年末年始前 最終日
[聖]年末年始前 最終日

年末年始休み

Jan.

1/7 (火) [聖]授業再開
[音]授業再開
30 (木) [音]後期終了

Feb.

2/22 (土) [音]学年末発表会
25 (火) 冬学期終了

Mar.

3/8 (土) 卒業式

第26回
教会音楽デー

2024年7月6日(土)

開催:対面/オンデマンド配信
受講料:3,000円

申込み締め切り

対面 :6月29日(土)

オンデマンド配信 :7月27日(土)

10:30-12:00

講義:「賛美の多様性と広がり」

講師:中山 信児

13:00-14:30

演習:「賛美歌を作しましょう!」

講師:武 義和

場所:OCC8階チャペル

※詳しくは同封のチラシをご確認ください。

OBIサマースクーリング

2024年7月8日(月)~9日(火)

教会における
非言語
コミュニケーション

会場

山崎製パン総合クリエイションセンター

講師 越智 馨 師

参加費 13,000円(1泊2食)

※通い参加は5,000円(食事別)

申込み締め切り:6月25日



詳細とお申込みは
◀こちらのQRから

定員 30名

皆さまの尊いご献金を
心より感謝申し上げます。

2023年10月1日~2024年3月31日

鎌倉海岸キリスト教会
鶴瀬恵みキリスト教会
久遠基督教会
日本同盟基督教団古河教会
荻窪栄光教会
宇都宮聖書バプテスト教会
小平聖書キリスト教会
市川北バプテスト教会
ニューコミュニティー
百合丘バプテスト教会
東京中央バプテスト教会
中平悦子
森井あずさ
工藤絃子
須子都
安藤良一
内藤清吉
戸川偕生
塩野孝子
生田今日子
砂谷智枝
山口松子
石塚幸子
飯塚多稼夫
米田由起子
原正子
佐山薫子
水口功
藤原導夫・智子(2)
中平悦子
阿江美知代
柏俣朝子
芳賀功
植木朋子
竹田広志
川島正子
須田松子
中山勝雄
小泉泉
脇坂勇(8)
飯田茂美
飯島延浩
チャペルコンサート 席上
OBI後援会・同窓会(2)

Ochanomizu Bible Institute

OBI News Letter



Issue 67

2024 Jun/1

お茶の水聖書学院/OBI後援会・同窓会 www.ochanomizu.cc/obi/

101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル3F Tel/03-3296-1005 Fax/03-3296-1010 Mail/obi@ochanomizu.cc



福音宣教への
熱い思い

トルコ旅行で
教えられたこと



OBI学院長
大井 満

去る3月、OBIにも後援していただいて、「パウロの足跡と黙示録の七つの教会を辿る聖書の世界へ」と題したトルコへの旅を実施し、同行解説者として参加してきました。参加者は8名(うち1名がOBI正科生)と少なめでしたが、主にあって親しい交わりを深めつつ、よい聖書の学びの旅となりました。

意外に感じられるかも知れませんが、トルコは実に聖書の世界です。もちろん現在はモスクが林立し、イスラム教の祈りの声が響き渡る世界ではあるのですが、旧新約聖書に関連する土地であり、何よりも旅行のタイトルが表すように、パウロの伝道旅行は、シリアのアンティオキアからトロアスに至るまで、すべて今日のトルコ国内に位置しています。ヨハネの黙示録2章と3章に記されている七つの教会も然りです。



もちろん聖書の時代の建物が残っているわけではありません。トルコは日本と同じように地震の多い国ですから、紀元1世紀の建物などはほとんど破壊され、瓦礫の下に埋もれています。考古学的な発掘作業は現在進行形で、今も進められています。



今回の旅行を通して学んだことから、あえて一つだけを取り上げると、宣教に対するパウロの情熱です。旅の三日目、わたしたちはイスタンブールからコンヤへと、国内線の飛行機で移動しました。このコンヤからバスで約2時間移動したところに、ピシディアのアンティオキア(現代のヤルパチの郊外)の遺跡があります。ここから地中海沿いの港町であるアタリア(今日のアンタルヤ)へと、さらにバスで移動するのですが、直線距離で約200キロメートル。標高差およそ1,000メートルを、バスはひたすら下っていきます。快適なハイウェイでした。場所によっては桃の花が咲き誇っていました。

しかしパウロたちは第1次伝道旅行において、この道を徒歩で上ってきたのです。「二人はピシディアを通過してパンフィリアに着き、ベルゲでみことばを語ってからアタリアに下り、そこから船出してアンティオキアに帰った」(使徒の働き14章24~25節)。ちなみに「アンティオキアに帰った」とあるのは、シリアのアンティオキアのことです。

パウロは第2次伝道旅行に出かけ、やがてトロアスでマケドニア人の幻を見たことで、エーゲ海を渡って福音がヨーロッパに伝えられました。今、トロアスの遺跡は、忘れられたかのようにひっそりとたたずんでいます。10年ほど前までは、「トロアスに行きたい」とトルコの旅行代理店に伝えても、有名なトロイに連れて行かれたほどだそうです。今でも、訪れる人もわずかなのでしょうか。街道沿いから小さな踏み跡を見つけて分け入っていくのです。そして海岸には穏やかに波が寄せていました。

神はパウロに伝道の熱い思いを与えてくださり、今も私たちに語りかけておられます。「だれを、わたしは遣わそう。だれが、われわれのために行くだろうか。」「ここに私がおります。私を遣わしてください」(イザヤ書6章8節)と、答えるのはだれでしょうか。





OBI 聖書科 2023年度報告

OBI教務主任
山村 諭

2023年度は正科に6名が入学し、正科全体では19名、聴講生は85名の方が学びました。ほとんどの受講生がオンラインでクラスに参加し、中には海外から受講する方もありましたが、コロナの影響が落ち着いたこともあり、少しずつ教室に来られる方も増えてきました。普段はオンラインのクラスでも年に何回か対面での授業を呼びかけて集まることもできました。オンラインでも対面でも学ぶことのできる良さを体験することができたと思います。

堀肇先生(元副学院長)が5月28日に急逝され、6月2日に葬儀が行われました。あまりにも突然の別れで学院にも動揺が走りました。このため堀肇先生の「牧会カウンセリング」のクラスは閉講となりました。7月31日にはOCC8階の

チャペルにおいて「牧会者堀肇先生の記念と感謝の会」が持たれ、堀先生を偲ぶ時となりました。

7月3～5日にかけて恒例のサマースクールリングを、エバーグリーン富士を会場に開催しました。講師として前学院長の藤原導夫先生と大井満学院長をお迎えして、「OBIの価値の再発見と前進に向かって」という 주제로、学び、語り合うことができました(参加者18名)。

神学することは、信徒であっても教職であっても、召しに応える歩みであることが確認されました。生活の全領域にわたって主に仕える働き人を育成するOBIの使命を改めて考えることができました。

3月9日に卒業式を行い、聖書科正科からは4名が卒業しました(卒業生の証しは

4-5頁に掲載)。コロナ禍の中でも熱心に学び続けた方々です。OBIは卒業後も「卒業生割引き」で学び続けることができます。生涯学習の場としても用いられることを期待しています。

OBIならではの新しい取り組みとしては、教文館の編集者である高木誠一先生が教師に加わり「キリスト教書の読み方」「信徒のための神学講座」の講義が行われました。さらに竿代照夫先生の宣教学、近藤勝彦先生の教義学、坂野慧吉先生の牧会学、山口武春先生の若者をつくる教会、小淵朝子先生のアンガーマネジメント、豊田信行先生の霊性の神学など、贅沢で多彩な教師陣をお迎えすることができました。皆さまのお祈りとご支援を心から感謝いたします。



OBI 教会音楽科 2023年度報告

教会音楽科主任
内藤 真奈

2023年度は16名の学院生が与えられ、オルガン・ピアノ・声楽の実技レッスン、聖歌隊クラス(指導法)の発表会を含む年間各16回の学びが守られたことを主に感謝いたします。

また、第24回教会音楽デー(7月)では、菊池実師による「詩篇」をテーマとした講義と斉藤とし子師のリードによる「詩篇を歌う」という演習、第25回(2024年1月)では赤坂泉師による「礼拝と賛美」についての講義と3名の教会

音楽教師による公開実技レッスンが行われ、各回とも好評を得ました。後日動画配信を行い、来場が叶わなかった方々にも用いられました。

10月には教師及び学院生(聖歌隊)と有志によるチャペルコンサートを行い、音楽を通して主を賛美する幸いと喜びを分かち合いました。

2月の発表会では、学院生が一年の学びの成果を発表しつつ、聴衆とともに主を崇める良き会となりました。会の最

後に、2023年度をもって退任された植木朋子師に感謝の意を表わす時を持ちました。

3月9日には、総合コース最後となる1名が卒業しました。コロナ禍にあり、レッスンや聖歌隊クラスが開講できず、一年延期しての卒業となったため、より感慨深いものとなりました。

主の憐みの内に、今年度の歩みが守られました。皆様のお祈りとご支援に心から感謝申し上げます。



主の御名に賛美

教会音楽科
植木 朋子

何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。ピリピ人への手紙4章6節

1991年お茶の水聖書学院創設の年より2023年度3月まで教会音楽科声楽実技レッスンを担当しました。思いもよらない主からのお招きでした。

当時の私は、礼拝の奏楽はもとより賛美の御用のお役に立つためにもっと上手になりたいと強い願望がありました。幅広い層に学びを提供する必要があると一途な思いもありました。初代学院長増田誉雄先生よりお声がかかり、祈りに祈った末での決断でした。

学院生は信仰厚く礼拝賛美への熱

意、授かった賜物は今も全く変わっていません。OBIも時代とともに大変な時期を乗り越え一等地である利便性ゆえ恵まれています。

昨今教会でも様々なジャンルの賛美が奏でられるようになりました。御言葉に励まされ聖三位一体の主の御姿を現す美しい賛美をささげていかれますことを期待しています。主の宣教命令と御心・賛美・祈りを求めて御活躍ください。

長きにわたり心に残る御指導・お祈り・お交わりを深く感謝申し上げます。



しかし私は 神の家に生い茂るオリーブの木。私は世々限りなく神の恵みに拠り頼む。詩篇52篇8節

2024年度入学式

学窓トピックス



OBI教務主任
山村 諭

4月8日、2024年度入学式が、聖書科正科4名、教会音楽科4名を迎え、お茶の水聖書学院の教室において対面とオンラインのハイブリッドで行われました。司式は大井学院長、説教は山村教務主任、奏楽は内藤教会音楽科主任が奉仕しました。



4月9日より聖書科・教会音楽科ともに授業が始まり、春学期に開校される14科目、各レッスンが、順調に滑り出しています。春学期の聖書科受講生総数は58名、教会音楽科は12名となります。

春学期終了後には、7月8日(月)～9日(火)でサマー・スクーリングを計画しています。今回の会場は、千葉県市川市の山崎製パン総合クリエイションセンター。通いでも参加可能です。講師は冬学期金曜4限に「教会における非言語コミュニケーション」を講義して下さる越智馨先生です(越智先生の紹介記事は右頁)。

聖書科は秋・冬学期の聴講も募集しています。松尾献先生の「目からウロコの教会学校:大人も子供も来週が待ち遠しい教会学校を目指して」(秋学期火曜2限)は、CSの先生方にお勧めです。

諸教会、後援会・同窓会の皆様のお祈りとお支えをここから感謝しつつ。

秋学期 火曜・2限 (13:30~15:00)

「目からウロコの教会学校」

大人も子供も来週が待ち遠しい教会学校を目指して

「教会学校の教師になったけど、メッセージ準備がしんどい…。語っていても子供が退屈そう…」

それぞれが安心して、気持ちよく、それでいて驚きと発見のある講義を目指します。

「もっと教会学校を楽しみたい!でもどうやったらいいの?」そんな声にしっかり応えたいと思います。小学校教員生活6年と12年の学生伝道に携わった経験値を引っ提げて、私の失敗も「これは子供に届いた!」という喜びもさらけ出します。

一緒に笑い、学び、分かち合い、祈りながら、<大人も子供も来週が待ち遠しい教会学校>を目指しませんか?どなたでも歓迎します。

講義の内容は、教会学校の「環境」から、教会学校のメインとなるメッセージ準備の仕方まで扱います。「ぜひメッセージを作ってみよう!」という方には実演もさせていただきます。でも「メッセージをみんなの前で語るのはちょっと…」という方は、発表しなくても大丈夫ですよ。



OBI教師 松尾 献
元キリスト教会教育主事
元KKG主事 元教員

Zoomによるオンラインの講座

9月3日(火)～11月12日(火)

※全10回

聴講料 15,000円

秋学期 願書提出期限 8月10日(土)

詳細は OBIホームページから

☑お問い合わせメールはこちら
obi@ochanomizu.cc

OBI教会音楽科 2024年度 年間行事・時間割

教会音楽科は、前期・後期各8回ずつの実技レッスン(オルガン/ピアノ/声楽)・聖歌隊クラス(指導法含む)をご自分のニーズに合わせて受講いただけます(複数選択可)。2024年度第26回教会音楽デーは7月6日(土)、中山信児師による講義「賛美の多様性と広がり」、武義和師による演習「賛美歌を作りましょう!」という内容で開催いたします(詳細・申込みはHPやチラシ参照)。チャペルコンサートは10月12日(土)、発表会は2025年2月22日(土)に開催予定です。別途チラシやHP等でご案内いたしますが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。今年度の前期在籍者は12名(内、新規1名、復帰3名)です。学院生の学びのため、また、今後新たに学ばれる方が一人でも与えられるよう、引き続きお祈りとご支援をお願い申し上げます。

前期8回/後期8回(発表会含む)

火	10:00-21:00	オルガン:内藤真奈
水	10:30-17:00	オルガン/ピアノ:内藤真奈
木	15:00-20:00	声楽/オルガン:斉藤とし子
金	15:00-20:00	声楽/聖歌隊(指導法):斉藤とし子

※個人レッスンの時間帯は要相談



2024年度 冬学期 金曜 4限

教会における非言語コミュニケーション

教会における非言語コミュニケーションってなんですか?



今年度冬学期に開講される「教会における非言語コミュニケーション」。神学校の科目としては耳慣れない講座です。どんな学びとなるのか、講義を担当する越智馨先生にお話しを伺いました。(聞き手=教務主任:山村諭)

伝達において言語情報は7%にすぎない?!

山村 本日はお忙しい中、突然のインタビューに応じてくださりありがとうございます。まずは越智先生のプロフィールからお伺いしたいと思います。

越智 牧師になる前に、紆余曲折、波乱万丈などと評される歩みをしてきましたが、献身の直前に何をしていたのかと申しますと、舞台の演出、脚本などを行いつつプロダクションを経営し、明治座という商業演劇の会社の所属タレントをしていました。

20代前半から映像の専門学校で制作、脚本、演技などを学び、その後、大きな時間のブランクを経て脚本の学びをし、明治座の養成所で4年間のトレーニングを積んで、映画やテレビ、舞台で脇役をするに至りました。その後、献身して東京聖書学校で4年間学び、日本基督教団の教職となり東調布教会担任教師を経て、2022年から現在の茅ヶ崎恵泉教会で牧師をしています。



山村 脚本家、舞台俳優から牧師になられた訳ですが、その過去の経験が現在の働きに活かされていると思いますか。

越智 少し特殊な経験かもしれませんが、それが活かされているのかと問われれば間違いなく活かされていると答えます。表現のトレーニングをしている中で、よく言われたのが決して十分な稽古をしていないうちに人前には出るなという注意でした。

十分なスキルを身につけていても日々の稽古をおろそかにしてはならない、そうでないと人には何も伝わらないというのです。



山村 人に伝えるための表現のトレーニングやスキルがあって、さらに日々の稽古があるのですね。私自身牧師として、人に伝える働きをしていながら、そういうトレーニングや鍛錬についてまったく無知です。

越智 キリスト教会の牧師の先生方で十分なトレーニングをされている方にあまりお会いしたことがありません。それでも確かに福音が届いている姿を見た時に、ああ神様、偉大なりと思うわけです。聖霊の働きをひしひしと感じます。救いは主のわざです。でも主は私たちを用いて福音を伝えようとするのです。だからこそ、私たちは伝えるためにもう一つ工夫したり、身につけるべきスキルを学んだり、日々の鍛錬をすることで、益々豊かに用いていただけるのではないかと、そう考えています。

山村 冬学期金曜4限の「教会における非言語コミュニケーション」講座はどんなことが学べるのでしょうか。

越智 伝達において言語情報は7%ほどに過ぎず、聴覚と視覚、つまり非言語コミュニケーションによって93%もの情報伝達をしているといわれています。

しかし福音宣教においては御言葉というあまりにも絶大な尊い力をもつ「ことば」がありますので、私たちはその福音ことばをどのように情熱をもって宣教していくかを求め考えていきたいと考えています。非言語コミュニケーションの目的として、福音伝道の働きへの補完、個人、教会単位での信頼関係の構築、相対する人への相互心理解、伝達などがあります。これらを踏まえて、身体表現や、表現の方法、ツール・環境を使う表現、教会全体を通じての表現へ踏み込んで学んでいきたいと考えています。普段、あまり意識しない事柄や個人でお持ちのスキルがあったりします。意外な賜物を見出す可能性もたくさんある非言語コミュニケーションの世界です。福音宣教への新しいチャレンジのきっかけになればと願っています。

山村 この夏にはサマースクーリングでも「教会における非言語コミュニケーション」の学びをしていただくことになっています。表現のトレーニングやスキル、日々の稽古のあり方なども学ぶことができると期待しています。引き続きよろしくお願ひいたします。本日はどうもありがとうございました。





幅広い学び

砂谷 恒夫

卒業研究：「聖書とことば」
指導教師：水口功先生



お茶の水聖書学院では聖書、神学、歴史、実践、語学など幅広い分野について学びました。聖書の授業では創世記、ヨハネの福音書、ヨシュア記等について先生が詳しく説明してくださり深く学ぶことができました。神学は予備知識がなく講義を理解するのに苦労しましたが、神学の基礎が少し身につきました。歴史では戦国時代の宣教師の活躍や、隠れキリシタンの苦境等について詳しく学びました。



実践分野では教会のあり方や信仰の持ち方など身近なテーマについて教えていただき、グループで受講者同士の意見交換ができました。ヘブライ語は見慣れぬ文字と記号に加え活用が複雑で難解でしたが、先生が丁寧に教えてくださりヘブライ語に親しむことができました。最後には水口功先生のご指導のもと「聖書とことば」をテーマに卒業研究を書きました。本学院で幅広く学んだことを今後の信仰生活に生かしていきたいと考えております。

感謝

小泉 泉

卒業研究：「キリストに倣いて-高山右近の生涯-」
指導教師：坂本誠先生

2024年3月、OBIの先生方、教会の牧師先生、OBI事務局の皆様のお支えによって無事に卒業の日を迎えられましたことを感謝致します。

昨年の夏は卒業研究一色の夏となりました。特に神戸に住む未信者の母と二人で研究テーマである「高山右近」ゆかりの地を訪ねた事や、その後実家近くの教会の礼拝に共に出席した際、帰り道に聞いた母の話は忘れられないものとなりました。

子どもの頃友人と二人で近所の教会に通い、若い牧師先生に勉強を教

えてもらっていたこと、神戸の震災の後、その牧師先生を探して訪ねて行ったこと、40年ぶりに再会した牧師先生はお元気で大変喜んで下さったこと。蒔かれた種が無くならず母の中にずっとあったことを思う時、教会で行われている一つ一つの取り組みがどんなに大切であるかを思いました。このような機会を与えて下さったOBIに心から感謝し、すべてをご支配下さっている神様を信頼して一步一步信仰生活を歩んでいきたいと思ひます。



卒業の恵み

島田 圭子 卒業研究：「主の祈り」 指導教師：大井満学院長

2020年からお茶の水聖書学院に導かれて、聴講生からはじめて4年間大変お世話になりました。卒業といっても学びの継続ができることも感謝です。

聴講生として学び始めた時は、卒業できるとは思っていませんでした。地方在住者にとって、オンラインでの授業はありがたかったです。

zoomでの学びでしたが、先生方

と共に学ぶ仲間から多くのことを教えていただき感謝しております。

卒業研究は、「主の祈り」でした。短い祈りの中に多くの学びがあり、今も繰り返し教えられています。その意味では、卒業研究が自分のテーマとなって深められていくように感じています。

4年間のこれまでのご指導、本当にありがとうございました。



神様を知る喜び

北川 君子

卒業研究：「旧約聖書における契約思想」
指導教師：水口功先生

皆様のお祈りに感謝申し上げます。当初を思い起こすと、入学の決心がなかかつきませんでした。「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。」(ピリピ2:13)この神様の真実を心より賛美申し上げます。聴講生と正科生合わせて6年間学びましたが、超教派の神学校であるOBIの特徴も有意義でした。所属教会で受洗してずっと過ごしてきたので、他教派教団の教義や様子を初めて知ることができ、まさに視野が広がる思いでした。

卒業研究については、「進め方」の手引きを送っていただき、相談にも乗って頂いたため、その目的や方法なども理解して臨めました。

「旧約聖書の契約」というテーマが与えられ、担当を引き受けてくださった先生のご指導のもと、まとめることが出来ました。主の導きを感謝いたします。

「主と教会に仕える働き人」とならせていただけるよう、これからも聖霊なる神様の御助けを祈っております。



OBI卒業の証し

飯田 茂美

2019年度から三年間の予定で教会音楽科総合コースでの学びを始めましたが2020年、新型コロナウイルス感染症発生により、卒業は今年2024年3月になりました。

学びを始める時、職場が変わり忙しくなりましたが、不思議と時間が与えられ、疲れて受講した時も、かえって元気になって帰宅したことを思い出します。

コロナ禍の間はzoomにて受講し、自宅でも学びを続けることが出来たことは感謝でした。オルガンレッスンでは「私でも弾けるのかな?」と思っていた曲にも挑戦することができ、苦手とする声楽も練習を積み重ねる大切さを丁寧に教えていただきました。

いつも先生方の祈りに支えられて受講できたことは何よりの恵みでした。

OBIで学びを始めるにあたって「あなたのわざを主にゆだねよ。そうすれば、あなたの計画は堅く立つ」(箴言16章3節)というみ言葉が与えられ、卒業まで導かれ守られましたことを感謝します。ここでの学びを生かしつつ、教会で良きご奉仕が出来ますように願っています。

